

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

|  |                    |                           |               |
|--|--------------------|---------------------------|---------------|
| 博士の専攻分野の名称<br>(Major Field of Ph.D.)   | 博士 ( 文学 )<br>Ph.D. | 氏名<br>(Candidate<br>Name) | DALMI KATALIN |
| 学位授与の要件  | 学位規則第4条第2項該当       |                           |               |
| 論文題目 (Title of Dissertation)<br>村上春樹文学と魔術的リアリズム  |                    |                           |               |
| 論文審査担当者 (The Dissertation Committee)   |                    |                           |               |
| 主 査 (Name of the Committee Chair)  | 教授                 | 有元 伸子                     |               |
| 審査委員 (Name of the Committee Member)  | 教授                 | 久保田 啓一                    |               |
| 審査委員 (Name of the Committee Member)  | 教授                 | 溝淵 園子                     |               |
| 審査委員 (Name of the Committee Member)  | 富山大学・教授            | 西田谷 洋                     |               |
| 〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)   |                    |                           |               |
| <p>「世界文学」の書き手と目される村上春樹は、日本のみならず海外でも精力的に研究が進められているが、その受容は文化圏によって異なっている。幻想的な要素を含む村上文学は、欧米圏では日本を代表する「魔術的リアリズム」の文学だと評価される一方、日本における近現代文学界では「魔術的リアリズム」の用語すらほとんど知られておらず、その評価は分れている。本論文は、日本と欧米圏における研究状況をふまえつつ、村上文学を「魔術的リアリズム」の概念によって再評価することを目的としている。</p> <p>論文は、序章、3部8章からなる本論、終章により構成される。</p> <p>第Ⅰ部では、本論文の鍵概念となる「魔術的リアリズム」について、その歴史と学説に関する整理を丁寧に行っている。美術用語としての「マギッシャーレアリスムス」に端を発し、ラテンアメリカ文学から世界中に広がった魔術的リアリズムの発展をたどるとともに、幻想文学やポストモダン文学との関連を含めた1950年代から現在にいたる「魔術的リアリズム」概念と、村上春樹文学への適応に関する先行研究を確認した。そのうえで、本論文では、「魔術的リアリズム」を、南米文学に限定することなく、現実的な要素と非現実的な要素を混在させつつ現実を把握し直す語り的手法として用いる。</p> <p>第Ⅱ部では、『踊る小人』『TVピープル』『タイランド』の3短篇小説を対象とし、現実と非現実の融合の様相に焦点をあてて分析する。1980～90年代に発表されたこれら3作品では、高度資本主義社会における大量生産、消費社会とそれを支えるマスメディア、阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件といった現実の社会に内包される不条理や病理を描く手法として「魔術的リアリズム」が用いられ、読者が現実を認識するための新たな視点を提供している。</p> <p>第Ⅲ部では、1990～2010年代の3長篇小説を対象として綿密なテキスト読解を行い、「魔術的リアリズム」の手法を評価する。魔術的リアリズムは、『ねじまき鳥クロニクル』では歴史を他者との接続を可能にさせる神秘的な力の源泉として描く手法であり、『海辺のカフカ』においてはネオ・シャーマニズムと関連づけられることによって、いずれも「歴史」に対する批判性を持ち得ていると論じた。最新作の『騎士団長殺し』では、ハンガリー人読者によるレビューを参照しつつ、第二次世界大戦における巨大な暴力の影が偏在するテキストの意味を考察した。</p> <p>終章では、村上春樹文学における「魔術的リアリズム」の手法の変遷をまとめた。初期の作品群においては作者の社会貢献のツールとして機能していたが、歴史批判が見られる近年の作品においてはむしろ登場人物の内界と無意識の描写に焦点が移り、政治的なメッセージ性が重視される魔術</p> |                    |                           |               |

的リアリズム文学とは異質な性格を帯びつつあると結論づける。

このように、本論文は、日本ではほぼラテンアメリカ文学の分析概念だと見なされていた「魔術的リアリズム」を援用することによって村上春樹の文学を検討し、その評価を更新したところに特質がある。「魔術的リアリズム」概念に対する作者本人の戦略性などの課題も残されているものの、日本語と外国語による文献を縦横に参照しつつテキストを精密に解読し、日本と欧米圏における春樹研究を架橋した意義はまことに重要である。さらに、ひとり村上春樹研究のみならず、魔術的リアリズムの要素をもつ他作家をも含む日本近現代文学研究を大きく進展させる知見に富む論文として高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)